



# 相談支援つうしん

県立湘南養護学校  
支援連携部 相談支援係  
令和3年6月29日(火)

R3 第1号

初夏を感じさせる季節となっていました。新しいクラスの仲間や先生との出会いを経て、お子さんのみならず保護者の皆様にとっても不安や期待の入り混じった季節に一区切りがつき始めているのではないかでしょうか。

さて、本校の教育相談活動についてお知らせします。学校には、担任以外にもお子さんの学部や学年に相談担当の窓口となる職員がおります。お子さんの家庭生活や学校生活について、困っていることや疑問に思っていることなどを相談することができますので、何かございましたらご連絡ください。

## 今年度の相談担当を紹介します



支援連携部長 教育相談コーディネーター	小学部 相談担当	中学部 相談担当	高等部1年 相談担当	高等部2年 相談担当	高等部3年 相談担当	臨床心理士	作業療法士
橋爪京子	佐藤美保 角田奈々子 本杉朱里	谷口朋子	日下田多恵子	下村真由		小川浩平	船本有紀

## 教育相談の申し込みについて

教育相談のお申し込み方法は、2通りあります。

- ① クラス担任への電話連絡(0463-34-7244)や連絡帳を通してお伝えください(事前におよそ相談内容の確認と、教育相談に必要な準備をさせていただきますので、下の「相談カード」にご記入の上、ご提出をお願いします)。
- ② ご来校の折に相談担当者に直接お声をかけていただいて結構です。

切り取り線

## 相談カード(保護者用)

記入日 令和 年 月 日	相談者
対象児童生徒 小・中・高 年	氏名

1. どのようなご相談ですか？(○をつけてください)  
 行動面について     学習面について     コミュニケーションについて  
 運動面について     家庭に関するこ     その他( )
2. 困っていることは何ですか

※担任へ(連絡帳可)お願いします。(担任→支援連携部 相談支援係)

後日、担任または支援連携部 相談支援係よりご連絡いたします。

\*できるだけ具体的にご記入ください。

- 例) ・子どもの機嫌が突然悪くなるのだが、どうしてなのか?どのように接すればいいのか知りたい。  
・子どもが伝えたいことがあるようだが、何が言いたいのか分からない。上手に表現する力を身につけるためにはどうしたらいいのか知りたい。



## 【ちょっと一休み】

今年度から相談支援連携部長・教育相談コーディネーターの橋爪京子です。昨年、湘南養護学校に転任しました。教育相談のお仕事は、伊勢原養護・平塚養護でも行っていたので、地域の方々には顔見知りの方が多いので少し安心しています。普段は、朝9時過ぎくらいから正門前で「おはようございます！」と交通安全の赤い棒を振っていますのでお気軽にお声掛けください。

作業療法士の船本有紀です。作業療法（Occupational Therapy）は頭文字をとってOTと言ったり、作業療法士もOT呼ばれたりもします。OTはリハビリテーションのひとつですが、学校では個別にリハビリはしません。では「何をするのか？」というとお子さんが困っていること、気になること（姿勢が崩れてしまう、運動が苦手、道具を上手く使うには？集中時間が短いなど）について先生と一緒に支援方法を考えます。保護者の方からもお子さんについて気になることがありましたら、気軽に声をかけてください。

臨床心理士の小川浩平です。臨床心理士はカウンセラーとして、先生方や保護者の皆さんとの相談に対応しています。子育てや子どもの成長の悩みについて、今ご家庭で取り組んでいることにちょっと工夫を加えることで、子どもにとっても接する大人にとってもずいぶんと楽になることもあります。毎日接している中で、何か気になることがございましたらお声かけください。

## 【子どもたちと毎日の生活をつなぐヒント】

### 《世界の成り立ち》

この世界は約束事で成り立っています。物には名前があり、それにふさわしい扱い方があり、身に付けるなければならないスキルや振る舞い方、こうしたものはすべて人ととの間の約束事で成り立っています。

例えば、物には名前があるため「何が欲しいか」「何らかのやり方」で伝えなければ欲しい物が手に入りません。食事の前には「いただきます」と唱えてから食事に手をつけることを求められます。こうした約束事の世界で私たちは暮らしています。いつも思うのは、こうした約束事をわかりやすく翻訳してあげて、この世界の攻略法を子どもたちに教えていくことの大切さです。

小学部の保護者の方に「ADLを教えていくことと、お手伝いをすることの大切さ（意味）」についてお話をすることがあります。ADL（身辺自立）や家の手伝いは、将来を見据えた視点で語られることが多いのですが、そればかりではなくその行為の中には、世界の約束事を理解して攻略するためのアイテムが含まれます。

例えば、「着替えを持って更衣室に行く、服を脱ぐ、服の前後を間違えないように着る、服を畳む、畳んだ服をかごに入れる、ロッカーにしまう」などの行動、家庭での「洗濯物を取り込む、夕食の配膳・片付け・洗い物、お風呂の浴槽洗い」などの行動の中には、「識別」、「方向」、「段取り（スケジュール）」、「行動を調整すること」、「空間の中の手がかりを活用すること」といったこの世界の約束事を攻略するために必要なアイテムが含まれています。私の仕事はこのアイテムを増やしていくこと、そしてアイテムを活用しやすいように一緒に考えお手伝いしていくことです。

### 《体の違和感》

急に背が伸びる時期につまり思春期の入り口で、子どもたちが不安定になってしまうことがあります。中学部の担任をやっていた頃、そうした不安定な子どもたちを教室にかかっているカーテンや校内宿泊学習で使った毛布で「ギュッ！」とくるんで遊んでいました。「ギュッ！」と、くるまりたがる自閉症スペクトラムの子どもたちは、周囲の状況理解が難しいといった子どもたちでした。

背が伸びるということは、身体感覚がそれまでとは変わってきます。背が伸びて体が大きくなり、神経・筋肉が引っ張られる身体感覚は「自分の体への漠然とした違和感」となります。こうした「違和感」は、無意識のうちに自分の体に関して常に注意が払う状態になり、その分だけ、身の回りで起きることに対する情報処理が追いつかなくなります。自分の体への過度な注目状態が続くことが「イラだち」です。さらに、情報処理のキャパが少ないため、できるだけ「これまでと同じであること」に固執します。これが「こだわり」です。

こうした子どもの担任となったときは、体力づくりで心と体を整え、課題学習で注意を自分の体から外界へ向けることを教えて、何よりもたくさん一緒に遊んでいました。中学部で行うことの一つに、こうした「身体感覚を再調整すること」が含まれます。中学部では、自分の体の変化に振り回されていることに配慮することも大切になります。

### 《新1年生のスタートでよくあることと 私たちが行う支援》

高等部への入学は、「誰と出会い、何をするのか」という期待と不安です。誰しもが「良いスタートをきりたい」と考えています。私たちは新入生が不安を抱えながらも前へ進めるように一緒に歩み、励まし、見守り、時には慰めて、一歩ずつ前へと進んでいることが実感できるような働きかけをしていきたいと思います。

#### 【漠然とした不安から生じる登校しぶり】

- ・新学期には「よいスタートをきりたい」との思いで登校しますが、だんだん登校をしぶるようになってしまい、生活習慣も乱れてしまうことがあります。・・・(ユーモアあふれるクラス作りや、学習内容が将来の自分にとって大切なことであると伝えることが大切になります。)

#### 【LINEなどSNSのトラブル】

- ・スマホ等を初めて持ち、嬉しい気持ちとともに、会ったこともない初めて出会った人といきなりアドレス交換などをてしまい、LINEのやりとりが不適切な言葉を書き込んでしまい、トラブルになることもあります。・・・(ご家庭とともにLINEの使い方を授業などで確認を行うことも大切になります。)

#### 【バスのエチケット・マナー】

- ・バス停での乗車の待ち方やバス車内の過ごし方のマナーを、ついつい友達とのやり取りがうれしくて忘れてしまう。・・・(バス乗車に伴うマナーを授業などで確認したり登下校指導を行います。)

日々の学校生活を大切にそして丁寧に過ごしていかなければと思います。

保護者のみなさまもお気軽に、いつでもどんなことでもお声をかけてください。

一年間、よろしくお願ひします。

(支援連携部 橋爪)